

科目名	国際関係論	
担当者	原 清一 / HARA, Seiichi	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 講義 / 2 単位 / 2 年次	
科目概要	授業内容	現代の社会は、国際関係の変動と無関係ではありません。そこで、この講義では国際関係をめぐる様々な理論を紹介し、複雑な国際関係を理解していく糸口を探ります。
	到達目標	国際関係の理論は、大きく現実主義と理想主義（制度主義）とに区分することができます。このほか、構造主義などと呼ばれる理論や、一国の対外政策の決定過程を分析する理論などもあります。講義ではこうした国際関係理論の系譜を確認し、それぞれの理論が示す論点について考えていきます。各理論の概要や特徴をつかんで、複雑な国際関係を構造的に把握し、考えられるようになるのが、この講義の目標です。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 国家について①（国際政治のアクター） (3) 国家について②（主権国家ほか） (4) ナショナリズムとエスニシティ① (5) ナショナリズムとエスニシティ② (6) 国際政治理論の系譜 (7) 現実主義①（勢力均衡論） (8) 現実主義②（霸権安定論、霸権循環論ほか） (9) 制度主義①（新機能主義、相互作用主義） (10) 制度主義②（相互依存論、レジーム論ほか） (11) 構造主義①（従属論、構造的暴力論） (12) 構造主義②（世界システム論ほか） (13) ミクロ理論①（政策決定論） (14) ミクロ理論②（リンクエージ・ポリティクス論ほか） (15) 結論（試験について）	
自学自習	事前学習	教科書等の該当箇所を事前に読んだうえで、講義に出席してください。
	事後学習	教科書や参考文献、講義ノート等の該当箇所を読み返して、講義内容を確認してください。
使用教材・参考文献	【教】 田中明彦・中西寛編『新・国際政治経済の基礎知識』有斐閣、2004年 【参】 石井貫太郎『現代国際政治理論』ミネルヴァ書房、2002年 堀江湛編『政治学・行政学の基礎知識』一藝社、2004年	
成績評価方法と基準	試験により評価します。講義内容がおおむね理解できていると判断されれば、単位が認定されます。教科書や参考文献からの長文引用、インターネットからの丸写しなど不誠実な答案は評価の対象外となり、単位は認定されません。	
備考	講義中に私語をする学生の受講は認めません。学期を通じて注意を2回受けた学生については、試験を受けることができません。単位は認定されません。	